

HAMAYOU

芦屋町ボランティア活動センター通信 135号

発行日 2021年6月1日

発行者
芦屋町ボランティア
活動センター「リード」
発行所
遠賀郡芦屋町中ノ浜11-6
町民会館2階
TEL 093-221-1011

SDGsを「存じですか？」

SDGsは、「持続可能な開発目標」です。サステナブル(維持する)・デベロップメント(発展)・ゴールズ(目標)の略で、SDGsと書いて、「エス・ディー・ジーズ」と読みます。貧困、紛争、気候変動、新型コロナウイルス感染症など、人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面しています。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなると心配されています。そんな危機感から、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、達成すべき具体的な目標を立てました。SDGsとは、人類がこの地球で暮らし続けていくために、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための目標です。

(公益財団法人日本ユニセフ協会・国際広報センターHPより抜粋)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsには、左図のような、17の目標が掲げられています。「すべての人に健康と福祉を」や「住み続けられるまちづくりを」など、私たちに直結する重要な問題が上げられています。

私たちにもできる活動

身近な事例を紹介します。フードバンクは、食べられるのに廃棄される食品の削減に取り組んでいます。レジ袋の有料化は、海洋汚染などで問題になっているプラスチックゴミの削減を目的としています。

ボランティア活動センターでは、りーどぼらんていあキッズとともに、環境問題を考える活動や、防災に関する学習を行っています。遠賀川河畔や公園のゴミ拾い、また防災に関するマップやマーク(ピクトグラム)の作成を行いました。

また、学生ボランティアと、芦屋町の観光資源の活用など、まちづくりに関する意見交換も行いました。

これらは、SDGsを意図して行ったものではありませんが、このように私たちにもできることがあるのです。

私たち自身の問題として、これからも考えて行きたいと思えます。



北九州未来創造芸術祭

北九州未来創造芸術祭 ART for SDGs というイベントが、4月29日から5月9日の期間で開催されました。

「真のゆたかさのために」と題し、アートによって持続可能な未来社会への注目をいざない、よりよい未来に向けての提案を行うSDGsをテーマとした芸術祭です。(北九州未来創造芸術祭チラシより抜粋)

北九州市八幡東区東田地区がメイン会場で、北九州市立いのちのたび博物館や北九州イノベーションギャラリー、北九州市環境ミュージアムなどがあり、それぞれが展示会場となっていました。また東田大通り公園にも屋外展示がありました。

大気汚染やごみ問題をテーマとした作品や、未来に向けた環境を考えた技術紹介などがありました。



INTER-WORLD/SPHERE: The three bodies

作者:奥中章人

バルーンの中は、人が生活できるくらいの広さがあり、外と同じ空気で満たされた、幻想的な空間です。通常目に見えない人と空気の関係を可視化し、さらには私たちに地球環境保護の重要性を暗示しています。



北九州のフクロオオカミ・北九州のドードー

作者:澁川テクニク

北九州市の藍島の浜辺で、同地域の人と拾い集めた漂着物で制作した大型絶滅動物ドードーとフクロオオカミです。全長は2.5m程で、緑の公園に佇む姿は、遠目ではきれいにも見えますが、全身を覆うものが色とりどりの漂着物のせいか、異様な存在感がありました。



Gardening 野菜のバルーン 彫刻

作者:チェ・ジョンファ



★各種教室 (見学できます。詳細はお問い合わせ下さい)

■デジタル写真教室

・ADPC(火曜日 13:00)

■福祉支援教室

・芦屋町手話の会

(月4回 水曜日 19:00)

・ハーティネットあいあい視覚障がい者支援

(月2回 木曜日 13:00)

■英会話教室

・AEGC(木曜日 10:00)

■手作り教

・さくら会〈洋裁教室〉

(水曜日 13:00)

・でんでんむし〈布絵本教室〉

(木曜日 10:00)

☆編集後記☆

SDGsという言葉は前から気にはなっていました。今回、身近な問題だと考えさせられました。もっとたくさんあったのですが、紹介しきれませんでした。

今年は梅雨までも早く来てしまいました。災害がないといいですけど。 廣田